

2007年9月号

No. 67

下大和田・小山町

谷津田だより

ちば環境情報センター・
谷津田プレーランドプロジェクト

TEL&FAX : 043-223-7807

E-mail:hello@ceic.info

http://www.ceic.info/

小山町生物調査

田中 正彦（千葉県立犢橋高校）

2007年8月23～24日、千葉県の高등학교で生物を教えている教員の研究グループ「生態教材研究班」（以下生態班）の生物調査を小山町の谷津田で実施しました。参加者は13名で、植物や鳥類、蝶類、トンボ類など、それぞれの分野で県内各地を調べている専門家です。

今年の5月23日にも生態班の調査をこの小山町で実施しましたが、改めて小山町の生きものの豊かさを実感しました。その一つにトンボの種類の多さがあります。今回トンボ類だけでもシオカラ、オオシオカラ、ノシメ、コノシメ、ショウジョウ、ナツアカネ、マユタテ、マイコ、コシアキ、チョウトンボ、オニヤンマ、ギンヤンマ、イトトンボは、オオイト、アジア、アオモンイトトンボなど15種類を確認しました。

また千葉市レッドリストでは絶滅・または消息不明になっている水草も確認され、多くの方の手により行われた復田・米づくりが、生きものの復活につながったものと考えられます。今後の小山町での活動がますます期待されます。



小山町生態調査に参加して

齊藤 薫（千葉市緑区在住）

今回で2回目になる生態班の研修会を8月23日、24日の2日間小山町で行います、との連絡をいただきどんな調査になるのか楽しみでした。

先生方は水辺の郷公園からスタートし、私たちY P Pの仲間4人は小山町で合流しました。私は草花が好きで、趣味はガーデニング、と言っていますが野草のことはまるで素人。実はトンボ以外つかめないという情けない事情もあり、私の趣味の延長になるように、植物の先生に同行しよう決めていました。ところが、Y P P田んぼできれいなイトトンボ。アオモンイトトンボ、アジアイトトンボ、オオイトトンボなどそれぞれ胸部や腹部がきれいなブルーで、微妙な色の違いに魅せられ、しばらくは昆虫の先生に同行してしまいました。その田んぼの上にはギンヤンマ、シオカラトンボが飛び交い、『なんと賑やかな田んぼ！』と畦を歩き出すと、今度はオニヤンマが『バサバサ！』と羽音を立てて私の横を通り過ぎて行きました。また、食欲旺盛なキアゲハの幼虫なのか、田んぼに生えている6～7本のセリの葉を食べつくしていました。いつさなぎになるのか、いつ羽化するか楽しみです。田んぼに設置されている看板には蝶の抜け殻がついていて、葦の根元にはトンボの抜け殻、りんどう広場の木にはセミの抜け殻があり、あちらこちらに昆虫の営みを感じられます。アザミ谷の入り口にもキアゲハ。「アゲハとキアゲハの違いは・・・」と聞こえてくるとついダンボ耳になってしまいます。ウラギンシジミ、ヤマトシジミ、カノコガが飛び、こちらでもオニヤンマが、縄張りを誇示するように飛んでいます。

アザミ谷の観察を終えて、アザミ谷入り口まで来ると、足元の草にオニヤンマがとまっていた。『あら？こんなところにオニヤンマが・・・』『ほんと！さっきのオニヤンマかな？捕まえられるかしら・・・？』『捕まえてみようか・・・？』『きっとたくさんの方が来たので、縄張りを荒らされないよう飛びすぎて疲れたのかね？捕まえられるかな～？』との会話を楽しみながら、仲間達と捕まえてみました。まじかに見るオニヤンマの顔は意外と可愛くて、オニとは程遠い顔つきでした。エメラルド色の澄んだ目の奥に見える黒い瞳でしょうか？より目になっていてなんともひょうきん!! 観察後、草に戻すと「オニババ～～！」とでも言っているかのように杉林の上の方に勢いよく飛び去ってしまいました。

午後は、大椎小学校用田んぼの辺りで植物の観察。カラスノエンドウのような実をつけ、葉はオジギソウのような植物は、何と「クサネム」というねむの木草版。雑草と一まとめで呼ばれるテンツキにも、よく見るとノギの出ているアゼテンツキ。ノギがないのがメアゼテンツキ。と名前がついていて、雑草でも奥が深いんです。ルーペで見ると細かいところまではっきりと見える、ミクロの世界は感激です。

2日間で教えていただいた全てを覚えるのは大変難しいですが、今回も色々教えていただいた動植物のこと、アゲハとキアゲハの違いなどを観察会で一人でも多くの仲間と共有したいと思いました。ここに書き入れないほどたくさんの動植物が生息している小山町は、本当に自然の宝庫だと実感できた生態調査でした。



里山たんけんレポート

第91回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2007年8月4日(日) 晴れ

今日は千葉市エコ体験スクールが実施され、43名の子供と付き添いの親で、エコ体験スクールの行事での観察会になりました。

穂の出始めたギンヤンマが舞う田んぼや、セミがたくさん羽化している山を巡り、フィールドビンゴを完成させながら生きものを観察して巡りました。何よりも子供たちを喜ばせたのは樹液に群がるカブトムシでした。大きな雄が樹液がたくさん出る良い場所で雌を抱えて守り、寄って来る侵入者をことごとく追い払う様に歓声を上げました。畦を歩けば飛び出したバッタがナガコガネグモの巣に掛かりアツと言う間にクモに糸でぐるぐる巻きにされることにも驚いていました。生存競争の厳しさを感じたようでした。小さな花や虫は虫眼鏡を覗きながら、タモ網ではメダカやドジョウをすくい、谷津田のいきものの豊かさを実感していました。午後はザリガニ釣り、クラフトの笛・ミニ竹とんぼ作り、弓での的中で、竹の水鉄砲、クモ合戦など思い思いに楽しみました。

子供たちの目の輝きを見て、きっと、このような環境を大切にしたいと願う大人になってくれるだろうことを確信した一日でした。

(参加者 大人27名、小学生43名、幼児1名; 報告: 網代春男)

第75回 下大和田 YPP「田んぼの守り神、かかしを作ろう！」

2007年8月25日(土) くもり

夏休みも残すところあとわずかです。子どもたちは宿題に追われているのでしょうか? 参加者がちょっと少なかったのですが集まった方はみんな元気いっぱい。まずは恒例の稲のモミ数を数えるコシヒカリの収穫量調査です。曇っていたものの田んぼで数えていると汗が額から流れ落ちてくるのですが子どもたち



ボクシングかかし初登場!

も一緒にがんばってくれたお陰で、これまでで一番たくさんのデータが集まりました。結果は一株に平均14本の穂、一つの穂あたり103粒のモミが付いていてほしい平均並みということでした。でもちょっとモミが小さい感じなのはあまりに暑かったせいでしょうか? かかし作りは涼しい林の中で行いました。どんな衣装にしようか? スタイルは? 顔つきはどうしよう? と4つに分かれたグループごとにあれこれにぎやかに話す声が林に響きます。思いどおりにいたり、いかなかったりしながら、個性あるかかしができました。グループごとにかかしと一緒に記念撮影をしてから田んぼに立てました。最後に鳥よけのテープも張って稲刈りまでの準備は万端です。曇って涼しかったせいでは帰る頃にはミンミンゼミが鳴き止んでツクツクボウシが秋の到来を告げていました。

(参加者 大人15名 小学生4名; 報告: 高山邦明)

第25回 小山町 YPP「かかしづくり」

2007年9月1日(土) 小雨のちくもり

8月の猛暑がうそのような肌寒さの上に最初小雨も降っていましたが、たくさん子どもたちが集まってくれました。まずは竹の切り出し。子どもたちも竹やぶに入っのこぎりを挽き、力を合わせて竹を引っ張り、にぎやかな作業のスタートです。かかしの分に加え、おだげ用の竹も切りました。かかしは2つのグループで2体作りしました。「ちょっとメタボ?」、「ブラックジャックの怖い顔!」、「今風のシャツだらっ!」、あれこれ考え工夫して素敵なかかしができました。さっそく田んぼに立てました。今回はお楽しみのスイカ割りもしました。目隠しをして小さい子から順番に竹の棒でスイカ割りに挑戦。右、右っ!、もっと前、左向いて!、みんなのかけ声に支えられ5人めで見事に割れました。暑い夏のお陰で甘く熟したスイカおいしかったですね。最後は幼稚園児から中学生までみんなでビーチボールを追いかけてリンドウ広場を走り回っていました。いろいろな年齢の子どもたちが群れて遊ぶ様子は失われた風景の一つです。帰り支度をはじめると稲刈りをしていた地元の方がつかまえたマムシを見せてくれました。毒ヘビにみんなちょっと腰がひけていましたがこれも貴重な体験でした。



かかしをかかえて、はい!ポーズ! (撮影 齊藤)

(参加者 大人8名 幼児1名 小中学生8名; 報告: 高山邦明)

谷津田いきもの図鑑 No.9

「マユタテアカネ・マイコアカネ・ショウジョウトンボ」(赤とんぼ)

今回は赤とんぼの代表のアキアカネ、ナツアカネとシメトンボを紹介しました。今回は赤い色が一段と鮮やかな3種類を紹介します。

マユタテアカネ

顔にまゆのような大きな黒い模様があるのが特徴でその名前が付けられました。でも模様が目より下にあるのでどちらかというとブタの鼻のようです。このブタ鼻模様は他のトンボでも見られることがあるので識別は注意が必要で、胸のわきにほとんど模様がなくてすっきりして



翼先が茶色のタイプ

いることが見分けるポイントです。羽には先端に点があるのが一般的ですが、メスの中にはシメトンボのように翼端がこげ茶色のものがあります。どちらかと言うと

す暗い場所が好きなので谷津では斜面林の縁でよく見られます。

マイコアカネ

秋になるとオスの顔が青白くなり、腹部の赤い色とあわせてその姿を京都の舞妓さんにみたくて名付けられました。数は多くありませんが、出会ったらその美しさに感激すること間違いなしです。マユタテアカネ同様に胸にははっきりとした線はありませんが短い黒のスジが多数あるのがマユタテとの違いです。メスや成熟していないオスはマユタテアカネとの見分け方が難しいので胸の模様に注目しましょう。この赤とんぼも林縁にいることが多いようです。

ショウジョウトンボ

真夏に見られるアカトンボです。腹だけでなく胸も頭も羽の付け根も全身まっ赤になるトンボで田んぼで出会うとドキッとします。「ショウジョウ(猩々)」というのは中国の伝説上の生きもので人間のような容姿で酒が好きで赤い顔をしているそうで、そこから名前が来ています。今まで紹介したトンボとは違うグループのトンボで、体がかっちりとしています。暑い夏の田んぼで縄張りを守っている様子は何ともたくましさを感じます。ショウジョウトンボも下大和田や小山では数が少ないのですが、ぜひ一度は見たいトンボです。(高山邦明)



ブタ鼻

マユタテアカネ



マイコアカネ



ショウジョウトンボ

谷津田・季節のたより

下大和田

- 8月12日(日) タコアシ開花, コシヒカリ田んぼにギンヤンマ舞う(田中)。
- 8月25日(土) イヌタデ, コナギ, アゼナなど秋の草花が開花(高山)。
- 9月 2日(日) やひろ学園の環境学習を実施, 環境省から依頼されたツボカビ病調査をニホンアカガエルで実施(田中)。

小山町

- 8月12日(日) 田植えが遅かったYPP田んぼのコシヒカリは今が花盛り。黒米も出穂。大椎小学校の田んぼでは農林1号の穂が出始める。その稲につかまって羽化するウスバキトンボを目撃。クズやツリガネニンジン、ヌスビトハギなどが開花(高山)。
- 9月2日(日) 秋の草花が増える。斜面林ではゴンズイの赤い実が目立つ。上空をサシバが鳴きながら飛翔(高山)。



ニホンアカガエルの体表を綿棒でこすり、検体を採取する

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

第76回 下大和田 YPP「みんなでわいわい！コシヒカリの稲刈り」

いよいよ収穫の季節のスタートです。まずは5月13日に田植えをしてから4ヶ月育ったコシヒカリの稲刈り。みんなでわいわいにぎやかに刈りましょう！

日時: 2007年9月15日(土) 10:00~14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 長靴、帽子、軍手、弁当、飲み物、敷物など。

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

第26回 小山町 YPP「自然観察会」

秋の草花で谷津田の畦が彩られる季節です。色づいたトンボの姿もたくさん見られるでしょう。

日時: 2007年9月29日(土) 10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場

持ち物: 長靴、軍手、飲み物、敷物など

参加費: 100円(資料代など)

第93回 下大和田 10月の谷津田観察会とごみ拾い

アカトンボも、アケビの実も色づいているでしょう。モズの高鳴きを聞きながら、秋たけなはの谷津を散策します。

日時: 2007年10月7日(日) 10:00~14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停に10:00(同上)

持ち物: 筆記用具、弁当、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋など

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター



地元の方が捕まえたマムシを見せていただく
(9月1日 小山町)

編集後記 猛暑の夏が終わりました。小山の谷津田では8月末から9月はじめが稲刈りのピークでした。低温の7月に続く暑すぎた8月の米づくりへの影響が話題になっていますが千葉ではどうだったのでしょうか？下大和田や小山の私たちの田んぼはこれからコシヒカリ、古代米の稲刈り、脱穀、籾すり忙しい季節がはじまります。今年の収穫はどうでしょうね。(高山邦明)